

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
318	こくごひょうげん 国語表現	総：4 工：2	3	総合学科 工業科	F選択 必修

履修条件、選択上の留意事項等

科目の目標
<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
② 思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
③ 主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
評価の方法	知識・技能及び思考・判断・表現は、定期テストやレポートで評価する。 主体的に学習に取り組む態度は、論述等の記述や提出物等への取組状況、授業に取り組む主体性で評価する。

学習計画						
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	分かりやすく説明しよう	情報の整理・伝達	話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。	○		
			自分の考えを明確にし、根拠となる情報を基に的確に説明するなど、表現の仕方を工夫している。		○	
			分かりやすい説明に必要なことを粘り強く理解しようとし、学習課題に沿って、言葉選びや言葉遣い、情報の整理の仕方などの観点から、説明の表現をよりよくしようとしている。			○
5	「問い」を考えよう (中間試験)	インタビュー	連絡方法の種類や特徴、構成や展開の仕方などについて理解を深めている。	○		
			目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。		○	
			コミュニケーションや思考において「問う力」が重要であることを理解し、インタビューの企画、準備、実施、インタビュー記事の執筆活動に臨んでいる。			○
6 7	「自分」を表現しよう (期末試験)	面接・自己PR	自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	○		
			自分の思いや考えが伝わるよう、具体例を効果的に配置するなど、話の構成や展開を工夫している。		○	
			自分を表現する活動を通じて、相手に共感をもって聞いたり読んだりしてもらうために必要なことをよく理解し、改善しようとしている。			○

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
9	身体で表現しよう	言語以外の表現	自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	○		
			相手の反応に応じて言葉を選んだり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫している。		○	
			即興で演じる活動を通じて、身体が表現することをよく意識し、スピーチや発表などの際に効果的に伝えられるよう、表現の仕方を改善しようとしている。			○
10 (中間試験)	話し合う力をつけよう	ファシリテーション	話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。	○		
			目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。		○	
			紹介したい本を積極的に選び、その本の魅力を粘り強く探し、他の人にも興味を持ってもらえるように、紹介する内容を十分に吟味し、表現の仕方も工夫しようとしている。			○
11	情報活用力を身につけよう	広報資料	実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方などについて理解を深めている。	○		
			読み手の共感が得られるよう、適切な具体例を効果的に配置するなど、文章の構成や展開を工夫している。		○	
			報告書を元に広報資料を作る活動で、媒体や主な読者に合わせて作ることの重要性をよく理解し、制作物に反映しようとしている。			○
12 (期末試験)	説得力のある提案をしよう	プレゼンテーション	話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。	○		
			論点を明確にして自分の考えと比較しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を吟味して自分の考えを広げたり深めたりしている。		○	
			プレゼンテーションを行う活動を通して、説得力のある提案をするために必要なことをよく理解し、今までの学習を生かして実践しようとしている。			○
1	表現を楽しもう	創作	自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	○		
			読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。		○	
			創作する際に、読み手にどう伝わるかを常に意識し、粘り強く作品へ反映させようとしている。			○
2 (学年末試験)	心をつかむ表現	作品制作	自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	○		
			自分の思いや考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするなど、表現の仕方を工夫している。		○	
			教材文を読んで、社会で必要とされている表現の大切さを十分理解しようとしている。			○